

# 山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi  
Veterinary Medical Association

第 739 号 令和 4 年12月

## 第21回アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会・ 第40回日本獣医師会獣医学術学会年次大会報告

常務理事 酒 井 理

令和4年11月11日(金)から13日(日)にかけて福岡市のヒルトン福岡シーホークにおいて、日本獣医師会及びアジア獣医師会連合の主催により、第21回アジア獣医師会連合大会・第40回日本獣医師会獣医学術学会年次大会が開催されました。

主催者の日本獣医師会及び開催地の福岡県獣医師会から、本会会員の参加要請があり、日本獣医師会から本会会員の参加目標を35人と示されました。このため、学会運営委員会に諮り、本会会員の参加登録料を支援することとし、会報等により参加者を募り、41名の会員に参加していただきました。

初日の午前中に開催された開会式では、アジア獣医師会連合会長に就任された日本獣医師会の藏内勇夫会長、アジア獣医師会連合前会長のクアザ・ニザムディン・ビン・ハッサン・ニザム博士の主催者挨拶に続き、来賓の岸田文雄首相・林芳正外務大臣からのビデオメッセージをはじめ、福岡県知事、福岡市長、農水省、厚労省、日本医師会等、多くの来賓からの挨拶などがありました。

開会式に続いて、河岡義裕(国立国際医療研究センター 国際ウイルス感染症研究センター/東京大学医科学研究所 特任教授 / ウイスコンシン大学教授)から「新興感染症の征圧を目指して」と題して記念講演が行われ、インフルエンザ、エボラ出血熱、新型コロナウイルスについての、最新の研究を紹介されました。

1日目の午後からは、7箇所の会場で、分野毎のシ

ンポジウムや招待講演、地区学会賞受賞講演、獣医学術奨励賞記念講演等が行われました。

本会からは、山口大学共同獣医学部の豊福肇教授がシンポジウム「食中毒制御の成功例から学ぶ対策と課題」において、同じく佐藤晃一教授が招待講演「獣医学教育(獣医学教育環境の更なる整備充実に向けて)」において、白永伸行副会長が、「地区学会賞受賞講演」において、講演されました。

また、山口大学共同獣医学部獣医微生物学教室に在籍されていた南昌平先生(現大阪大学)の山口大学当時の研究が、「獣医学術奨励賞(獣医公衆衛生)」を受賞されました。

今回の大会のテーマである「アジアからのワンヘルスアプローチ」に沿って、各会場とも、熱のこもった発表・意見交換が行われていました。特に、福岡県では、「ワンヘルス推進基本条例」を制定するとともに、「ワンヘルス推進行動計画」を策定し、感染症対策、薬剤耐性、環境保護、健康づくり等、県をあげて様々な取り組みが行われていました。

私自身初めての日本獣医師会獣医学術学会年次大会への参加でしたが、学会の規模から、著名な講師、講演内容等、いずれも想像を上回るもので、広く、深く学ぶことができました。

今回参加していただいた、会報編集委員の鶴田祐哉先生(美祢支部)と三谷藍先生(徳山支部)に、大会の概要について投稿していただきました。

### 令和4年度第1回小動物講習会のご案内

下記のとおり開催します。多くの皆様の参加をお待ちしています。

- 開催日時：令和5年1月15日(日) 10時～16時
- 開催場所：防長苑 2階孔雀の間(山口市熊野町)
- 講師：獣医師 博士(獣医学) アジア獣医皮膚科専門医  
「犬と猫の皮膚科」院長 村山信雄先生
- 演題：犬と猫の臨床皮膚科アップデート～基礎から応用まで～
- 参加申込：令和5年1月6日(金)までに事務局に申し込んでください。
- 参加費：本会会員は無料ですが、それ以外の方は、次のとおり参加費をいただきます。  
学生：千円、動物看護師：2千円、その他(一般)：3千円

※昼休憩の時間にランチョンセミナーを計画しています。

注：11月号会報でお知らせした第2回小動物講習会の開催日時を次のとおり変更します。

開催日時：令和5年3月5日(日)10時～16時(開催場所及び講師は、変更ありません)



岸田首相ビデオメッセージ



林外相ビデオメッセージ



開会式終了後の主催者・来賓

獣医学術奨励賞を受賞された南昌平先生を囲む  
下田宙先生と前田健先生

展示会場の様子



ガラディナー会場

## FAVA大会・日本獣医師会獣医学術学会年次大会参加報告(産業動物)

美祿支部 鶴田 祐哉

(山口県農林総合技術センター)

先日開催された、FAVA大会及び日本獣医師会獣医学術学会年次大会に参加しました。畜産関係の話で気になったものを紹介します。

“日本における食用動物分野における薬剤耐性菌の現状と課題”では、JVARM(家畜由来細菌の薬剤モニタリング)の結果に基づき、近年の各畜種における薬剤耐性菌の状況について報告がありました。国内の家畜における抗菌性物質の販売量は減少傾向であるそうですが、依然としてテトラサイクリン系の販売量が多く、大腸菌のテトラサイクリンに対する耐性状況は減少傾向にあるものの依然として30%以上とのことでした。しかし家畜において、フルオロキノロンや第三代セファロスポリンの耐性は低水準をキープできているようです。二次選択薬は感染症の治療において、人獣問わず非常に重要な薬剤です。テトラサイクリンのように耐性率が大幅に上昇してしまった場合、簡単には耐性状況が改善しないので

あれば、数十年後にはフルオロキノロンや第三代セファロスポリンは使えない薬になってしまうかもしれません。日本における抗菌剤の使用量の半分以上は動物に使われているので、AMR対策には獣医師が非常に重要なポジションを占めているのではないのでしょうか。講演の先生方は口を揃えて、“抗菌剤の適切な使用が何かは難しいが不適切な使用を無くすことが重要”と仰っていました。私も若齢子牛の預託管理という仕事柄、感染症の治療が主で抗菌剤を毎日のように使っています。入れ替わり立ち替わり新しい子牛が入ってきては日々抗菌剤を使うという、耐性菌がとても出現し易そうな状況ですので、より一層抗菌剤の取り扱いには注意していきたいです。耐性菌による死亡者数は、2050年には世界で1千万人を超えるといわれており、癌による死亡者数を上回るといわれています。2050年に私はおそらく現役ですが、苦勞するのはもっと後の世代の獣医たちだ



と思います。後輩たちにいい形でバトンタッチできるよう、今のうちからしっかりと対策をとっていくことが必要だと感じました。

他には、プロバイオティクス、“柿皮給与による牛の消化管内メタン生成抑制効果の検討”、“馬の急性間質性肺炎”などがありました。子牛の事ばかり勉強し

ている私には、他の畜種の話聞いたことは非常に楽しかったです。

学会などに参加する一番のメリットはモチベーションが上がることだと思っていますので、FAVA大会でやる気のあがった今のうちに子牛以外のことも勉強しようと思います。

## FAVA大会・日本獣医師会獣医学術学会年次大会参加報告（小動物）

徳山支部 三 谷 藍

（三谷獣医科病院）

令和4年11月11日(金)より13日(日)まで福岡県のヒルトン福岡シーホークにて開催されましたFAVA大会及び日本獣医師会獣医学術学会年次大会へ参加して参りましたので、ここにご報告いたします。

Covid-19パンデミックより長らく規制されていた海外からの入航制限も解かれ開催された本大会では八女茶が来場者に振舞われるなど開催地福岡県内の豊かな農林水産資源を“One Health”の理念のもと紹介されており、県外そして海外からの来訪者を意識する国際大会にふさわしいおもてなしにあふれた様相だったように思います。

しかし、お祭り要素にばかり浮かれているとパネルディスカッションや講演の一部が英語を基調として行われていたり、休憩ブースでアジア圏より来日されていた関係者の方々と同席になったりと、普段の生活の何倍も「今ここで英会話の神様が降ってきて私に憑依してくれたらいいのに…」と日本語以外（時に日本語でさえも？）不得手なことが非常に口惜しくなる場面もありました。翻訳機がかなり進歩している昨今でさえも、やはり直接ネイティブな方と自分の言葉で意見交換ができることの魅力を再認識させられた大会となりました(笑)

大会の中で興味深かった「小動物の遺伝子疾患update：注目すべき疾患と症状」のシンポジウムに広島県の田村慎司先生、栃木県の鷹栖雅峰先生、横浜の印牧信行先生が各々ライソゾーム病、スコティッシュフォールドの軟骨異形成について、眼科領域における遺伝子疾患を日常診察で見抜く心構え、

などを講演しておられました。

遺伝病と聞くと我々獣医師でさえも厄介だな…と感じる部分も多いですが、こと飼い主としては生まれつきの病気、治らない病気とさらに悲観されやすく、またその悲しみがブリーダーへの怒りとなって跳ね返ってくるリスクをはらんでおり、その懸け橋となる獣医師の説明の言葉一つ一つを慎重に選んでいかなければならないという演者の言葉に、明日からの診療にあたる身として背筋をピンと伸ばしたくなる内容で大変心に残りました。また座長の鹿児島大学の大和修先生は今後国内の遺伝子疾患の統合的予防戦略についての講演の熱量に充てられて、なんだかちょっとへんにふらつく犬はライソゾーム病か？と疑う目を持たせてもらったような気になりました。また怪しい症例は鹿児島大学へ紹介することで国内のデータ収集に協力もできるとのこと。一般開業獣医からしたら大変心強いアナウンスと感じましたのでここにご紹介いたします。最後に印牧先生の講演中の言葉を引用し、大会報告とさせていただきます。

「愛玩動物が家族とみなされるようになって久しい昨今、予後不良という言葉が死語になりつつあると感じます。我々獣医師ができることは、遺伝病含めて病気を見落とさぬようルーティン化された検査を淡々と行い、遺伝病が判明して悲しみに暮れ、不安を怯える飼い主とその動物にどうやって寄り添えるかを考えながら診療にあたるばかりです。」



↑左から田村先生、鷹栖先生、印牧先生、大和先生

## 令和4年度産業動物講習会開催報告

産業動物部会長 大石大樹

(山口農林水産事務所畜産部)

11月5日(土)、山口市防長苑において、令和4年度産業動物講習会が開催されました。新型コロナウイルス第7波が落ち着いた時期でもあり、今年度は対面にて開催することができました。講師には(株)微生物化学研究所 動物医薬学術室学術課 シニアテクニカルアドバイザー の加藤敏英先生をお招きし、会員や山口大学共同獣医学部学生等30名が参加されました。久しぶりにお会いする会員の先生方の近況なども聞くことができ、対面開催の良さを感じることができました。

加藤先生には「抗菌剤の使用量低減による薬剤耐性対策を目指して」という演題でご講演をいただきました。先生は山形県山形市のご出身で、酪農学園大学獣医学科をご卒業後、山形県農業共済組合連合会において長年家畜診療業務に従事されました。その後、母校の酪農学園大学の教授を経て、本年4月から現職でいらっしゃいます。

講演の最初に、現在の抗菌剤治療の実態が紹介されました。先生が診療を始められた当初、大きな治療効果を感じていたペニシリン等の抗生物質が、現在は効果が見えにくくなってきていることを感じておられるとのことでした。

その原因として、農場の大型化や家畜の移動広域化に伴う病原体拡散など家畜飼養環境が変化してきたことで、耐性菌が増加していることが背景にあるのではないかとのこと。また、*Pasteurella multocida*等呼吸器病原菌の薬剤感受性について年代毎にみると、新しい年代ではより耐性化が進んでいることが示されました。

また、耐性菌が認められた農場において、その抗菌剤の使用を中止すると、耐性率が下がるデータも

示されました。農場としては予防的に抗菌剤を使用したいという意向があるのかもしれませんが、いざ疾病が発生した時に効く薬がないという事態になりかねず、投薬中止の指導も獣医師の大切な役割だと痛感しました。

先生は抗菌剤に頼らない畜産経営を目指す手段として、ワクチンや生菌剤の効果を最大限に引き出すことが重要であるとのことの説明がありました。ワクチンに関しては、移行抗体の影響をよく考えて接種時期を決定すること、ワクチン溶解後は適切に温度管理を行うことなど、基本的な事項が重要であることを改めて確認できました。

生菌剤に関しては、抗菌剤を使用する前に生菌剤を投与することで、大腸菌等の検出割合が低下し、さらには耐性率も低下したとの研究データが紹介され、耐性菌問題に生菌剤が有効である可能性を示されました。

先生のご講演は、診療現場と実験データの両面からのご説明であり、大変わかりやすいものでした。先生が強調されておられたのは、薬剤耐性問題は抗菌剤を使用する現場の獣医師しか解決できないということです。薬剤耐性対策は世界的な取り組みであり、公衆衛生上大きな課題ではありますが、その成果は一人一人の獣医師にかかっていると思うと、身が引き締まる思いとともに、今回得た知識を生かして、よりよい生産現場を作ることができるのではとも感じました。

項を終えるにあたり、加藤先生に感謝申し上げるとともに、引き続きのご指導をお願いしたいと思います。加藤先生、今回は熱意のあるご講演をありがとうございました。



講演される加藤敏英先生



質問される田中泰彰先生（下関支部）



質問される鶴田祐哉先生（美祿支部）



質問される田村英則先生（岩柳支部）



講習会会場の様子



## 令和4年度第3回理事会開催報告

常務理事 酒井 理

令和4年11月17日(木)13時30分から、県獣医師会館2階会議室において、令和4年度第3回理事会を開催しました。

理事13名全員、監事3名中2名に出席いただき、田中尚秋会長からの平素からの会務運営の協力・支援に対する謝辞等の挨拶の後、次の4件の議案について審議していただきました。

第1号議案 令和4年度事業の件(報告事項)

第2号議案 令和5年度事業の件(承認事項)

第3号議案 新規加入会員に関する件(承認事項)

第4号議案 委員会委員に関する件(承認事項)

**第1号議案**の報告事項については、10月に開催した第1回支部長会議の議題1の内容と同じで、会報11月号に掲載していますので、説明は省略します。

**第2号議案**では、事務局から次の内容を説明し、承認されました。

- ・狂犬病予防集合注射の実施に関する市町との協定について、狂犬病集合注射料金を今年度と同額の1頭あたり2,500円とする
- ・犬の首輪に付ける登録鑑札や狂犬病予防注射済

票等の狂犬病予防資材について、希望する市町の必要枚数を取りまとめて、本会で一括発注して、市町に配付する

- ・動物病院が使用する狂犬病ワクチンの確保については、本会が一括発注して、動物病院に配布する
- ・狂犬病予防注射啓発ポスターは、第2回小動物部会委員会の承認を得て発注する
- ・狂犬病予防注射頭数が減少しており、県広報紙の他、各種報道媒体を活用して、「狂犬病予防注射の重要性」について啓発する

**第3号議案**では、下関支部から報告のあった新規加入会員について、承認されました。

**第4号議案**では、学会運営委員と獣医学雑誌編集委員に、山口大学共同獣医学部の下田宙先生に就任していただくことについて、承認されました。

**その他**として、田中会長から、本年6月から開始された新たなマイクロチップ装着・登録制度の改善に向けた日本獣医師会と環境省との検討状況について情報を提供し、会を閉じました。

## リレー随筆

岩柳支部 水田 妙子  
(東部地区家畜診療所)

大学時代からの友人であり、山口県の畜産で活躍中の畜産試験場の水間先生からリレー投稿のバトンを渡されたNOSAI東部診療所の水田です。バトンが来た際、産休中で分娩予定日ももう少しかという水間先生から連絡がきたので、もしかしてもう産まれた？何かあったかなと思って大慌てで電話に出たら「次よろしくね～」の内容だったのでほっとしたのを覚えています(笑)その後、無事に元気な男の子を出産されたとのことと、落ち着いたら会いに行けるのを楽しみにしているところです。

さてこのリレー投稿、内容は何でもいいんだよと聞いてはいましたが、何について書こうかなと色々迷いながら結局締め切りギリギリになりました(\*\_\*; 小3の長男に相談したら「ママが楽しいと思うこと書いたらいいじゃん」との的確なアドバイスをもらったので、私の好きな音楽について書かせて頂こうと思います。

NOSAIの獣医師も含め、畜産関係の獣医さんはおそらく皆さん車での移動が結構あるのではないかと思います。皆さんは移動時間中をどのように過ごされていますか？四方に面積の広がる山口県の地形もあり、こちら東部診療所でも日によっては、北はほぼ広島との県境にある錦町から南は周防大島まで車を走らせることもあり、1日で走行距離300km程というときもあります。決してうまくはないですが、もともと車の運転自体は好きなので長距離運転でもあまり苦にならない方ではありますが、好きな音楽を聞きながら、診療へ向かう間、次の診療の考えられる病気や治療方法について色々と考えを巡らせたり、家の冷蔵庫の中を想像しながら今日の晩御飯はこれとあれでと一人で色々考えられる往診中の診療車での時間が結構好きです。初めのうちはラジオを流して音楽を楽しんでいましたが、牧場への道中は山の中など電波が悪い場所のことも多いため、夫に教えて

もらいスマホに音楽ストリーミングサービスのアプリを入れてからは、学生時代から好きだったミスチルやウルフルズをはじめ小さい頃から好きだったピアノのクラシック音楽など幅広いジャンルの音楽を楽しめてぐっと車内の快適性が上がりました。ちょっと難しいかと思われる症例に向かう前には、私はウルフルズのトータス松本さんの声を聞いて、自分に気が



※写真は文とは関係ありませんが、周防大島にある「なぎさ水族館」での光景です。館内は小さいですが、ひざ下まで入って生き物を触れるタッチプールなど面白い取り組みが多くお勧めです！

でから、家では男子3人の子育てにバタバタの毎日ではありますが、家でも音楽が流れているだけで家事もはかどるし、子供たちが登園準備するのも、好きな音楽を流すとノリノリでやってくれる(こともある)ので、私にとってはなくてはならない相棒になっています。

ただだらととりとめのない文章になってしまいましたが、もし私と診療車ですれ違った時に車内で熱唱しているのをみかけたら、楽しんでるんだなど優しく見守って頂けたらありがたいです(^\_^)では、このバトンを次は、柴の家動物診療所の児玉順子先生にお願いします(^^)

# 令和4年度第1回岩柳支部研修会開催報告

岩柳支部 竹田 晃

(竹田動物病院)

去る2022年10月27日(木)に岩国市の岩国市福祉会館会議室において開催されました、令和4年度第1回岩柳支部研修会についてご報告させていただきます。

当日は木曜日の午後の研修会でしたが多数の先生方にお集まり頂きました。新型コロナの第7波がどうなるかという状況での研修日の決定でしたが、実施にあたり会場での感染防止対策として健康チェック表や入室前の検温と消毒などの協力をしていただき参加された先生方に改めて感謝申し上げます。

今回の研修会では、山口県東部家畜保健衛生所の古澤剛先生に「豚熱の最前線レポート2022」という演題でご講演頂きました。講演内容は、現在の山口県内の豚熱の発生状況や豚熱の蔓延防止対策を中心に最終処分方法まで知らないことも多々ありでした。

新型コロナウイルス感染やウクライナ関連のニュースが多く報道されている中、国内県内の豚熱の発生状況は調べたりしないとあまり知らない情報だと思われまます。

本研修会では基礎的なウイルスの型や過去の豚熱防疫の歴史(GP生ワクチンの防疫に果たした役割)、豚熱が特定家畜伝染病であり発生疑惑時からウイルス感染認定、そしてと殺から埋葬や焼却という一連の防疫処置完了までを、スライドで丁寧にご説明頂きました。

また発生の確認のため現地への検体採取において家保、市町、農水事務所、畜産振興課の多くの人員が日頃の仕事に加えて通報に対応しており、検査件

数における陽性件数が多いなど得られた情報を元にワクチン接種や野生イノシシ餌用豚熱ワクチンを撒いたりしていることは、今後の豚熱の撲滅や養豚産業を守るために努力していることがわかる非常に関心する内容でした。

埋葬にも土地の問題(土壌や水脈)があることや日本に数台しかない巨大な移動式レンダリング装置はまず通常生活している私たちが見ることはなく、紹介された際にどうしてこういう装置が必要なのか考えさせられましたし、現在県内で蔓延している豚熱が三重県で発生した豚熱の遺伝子に近いウイルスであることなど非常に驚きました。特に大事なのが飼養衛生管理基準遵守指導として物理的柵と電気柵の併用やバイオセキュリティ強化対策農場の構築が大事で講義を通じて一貫して県内の豚熱の蔓延を防止するという先生の意気込みを感じられました。

新型コロナウイルス感染症の問題に伴いオンライン講習会が一般的となった昨今ではありますが、やはり講師をお招きしての対面式研修会は短い時間でも集中して知識を得られ長く記憶に残る点では非常に重要な機会であると改めて感じる研修会となりました。

研修委員として、本研修会が無事に対面で開催できたことについて参加していただいた先生方、講義をしていただいた古澤剛先生の協力なしでは開催できませんでした。ありがとうございました。

(2022年度山口県獣医師会岩柳支部研修会資料 R4.10.27)

## 「豚熱の最前線レポート2022」

山口県東部家畜保健衛生所  
古澤 剛

### 本日のお話の内容

- 1 豚熱とは
  - (1) ①病原体、症状、②簡単な変遷等
- 2 発生状況
  - (1) 豚(農場等)
  - (2) 野生イノシシ
- 3 ワクチン
  - (1) 対飼養豚・飼養イノシシ
  - (2) 対野生イノシシ
- 4 現状での東部家保防疫対応
  - (1) 対飼養豚・飼養イノシシ
  - (2) 死亡イノシシ・捕獲イノシシ検査
- 5 参考(発生時の防疫作業)

## 黒部峡谷とオオカミの尿

岩柳支部 三好雅和

(柳井農林水産事務所畜産部)

10月末に黒部峡谷を遡上した際、黒四地下発電所の送電線口トンネルの対岸にある保守巡回路兼登山道の上に「ハガキより少し小さい銀色のパック」が落ちていました(写真1、2)。その後、同様のものが登山道周辺の転落防止用の番線や木のところどころに取り付けてありました。また、前日通過した登山道の周辺でも同様のものがあり、その時点では保守点検のための目印かな?と思い特に気にも留めていませんでした。落ちていたパックを見ると英語で「WOLF PEE、100% Wolf Urine」と書いてあり、オオカミの尿の臭いがシカ、クマ、イノシシなどの野生動物に忌避効果があるような説明も記載されていました。当地域はクマ、サル、カモシカなどの生活領域であり、これらは登山道に野生動物が近寄らないようにするための方策と思われました。山の中でこのようなものを見るのは初めてでした。山小屋の人に聞くと「昨年からは保守巡回路や登山道を整備する業者が使っている。クマに効果があるような話も聞くが、よくわからない。」とのこと。下山後にインターネットで調べてみると「イノシシ、ハクビシン、アライグマ、タヌキ、キツネなどの野生動物に対して忌避効果があった、なかった等の多くの体験談」が出ていました。ちなみに日本のオオカミは1905年1月に奈良県の山中で捕獲された個体が最後の生息情報となった絶滅種であり、現在の野生動物たちはオオカミの尿の匂いを知らないはずですが、本能的に忌避するのでしょうか。

黒部峡谷の登山道ではクマの糞を見ることはよくあります。また、目撃情報も時々聞きますが、私が知る限りクマ関係の事故は聞いたことはありません。このあたりに登山者が入山できるのは残雪等の関係から9月半ばから10月末の短期間であり、入山者数も他地域に比べて非常に少ないことが影響しているかもしれません(数年前、逃げ場のない狭い登山道でクマに遭遇して咄嗟に立木にぶら下がって運よくやり過ごした人がいるようです)。とはいえ、この銀色のパックはクマと人に不幸な出会いを防ぐ新たな取り組みなのでしょう。今年で2年目のようですが、今後の効果判定が気になるところです。なお、過去

に農研機構近畿中国四国農業研究センターが行った「オオカミの尿を吸収させたワラを用いた試験」ではイノシシの忌避効果はなし、との報告がありましたが・・・。

一方、山小屋の御主人によると、「当地域の送電線を支える鉄塔の保守管理は大変。非常に頑丈に作られているが、自然の力は強大であり泡雪崩で鉄骨やボルトなどが損傷して急遽建て替えたこともある。建てられている場所は急峻で複雑な地形であり、保守管理や建て替えなどの資材の多くを歩荷(人力搬送)で行っている。」とのことでした。厳しい自然の中、野生動物に囲まれながら水力発電の維持のために多大な苦勞があることを改めて認識させられました。



黒四地下発電所から地上への送電線口(右の山の中腹)、保守巡回路兼登山道(左側岩壁の中腹)



オオカミの尿入りパック



## 性感染症について

山口支部 中間 實徳

(山口大学名誉教授・東亜大学獣医看護学コース客員教授)

前号の性教育の続きとして、性感染症のリストアップされたものについて、公益財団法人「性の健康医学財団」ホームページから引用した各疾患を下記に記します。

各疾患の説明<sup>(1)</sup>

### 梅毒

病原体：梅毒トレポネーマ  
 感染経路：性的接触を介する皮膚や粘膜の病変との直接接触  
 潜伏期：約3週間  
 症状：感染した部位（性器、口など）に赤色の堅いしこりやただれができ、近くのリンパ節が腫れる（第1期）。その後3～12週間くらいの間に、発熱、全身倦怠など全身症状とともに、皮膚に様々なタイプの発疹が現れ（第2期）、さらに10～30年の間に心臓や血管、脳が冒される（第3、4期）。  
 診断：病変部から病原体を確認（顕微鏡観察）、あるいは血液による抗体検査  
 治療：抗菌薬（主としてペニシリン系）  
 放置すると第1期から2期、3・4期へと徐々に進展する。精神神経異常、死に至ることもある。母体の感染により、出生児が先天梅毒になることがある。

### 淋菌感染症

病原体：淋菌  
 感染経路：性的接触を介する粘膜との直接接触  
 潜伏期：2～7日  
 症状：男性では排尿時痛と濃尿、女性ではおりものや不正出血あるいは症状が軽く気づかないことも多い。咽頭や直腸の感染もあるが、自覚症状がなく気づきにくい。  
 診断：性器、尿道からの分泌物や口腔などから病原体分離培養、あるいは核酸検査（PCR）。  
 治療：各種の抗菌薬に対して耐性率が高くなっていくが、有効な抗菌薬もある。  
 放置すると不妊の原因になることがある。感染した母体より出産した新生児が淋菌性結膜炎になることがある。

### 性器クラミジア感染症

病原体：クラミジアトラコマティス  
 感染経路：性的接触を介する粘膜との直接接触  
 潜伏期：1～3週間  
 症状：男性では排尿時痛や尿道掻痒感、女性では症状が軽く無症状のことも多い  
 診断：性器、尿道からの分泌物や尿、口腔内から抗原検出や核酸検査（PCR）  
 治療：抗菌薬（マクロライド系、ニューキノロン系が中心）  
 放置すると不妊、流産・死産の原因になることがある。

### 性器ヘルペス

病原体：ヘルペスウイルス  
 感染経路：性的接触を介する皮膚・粘膜の病変との直接接触  
 潜伏期：2～10日  
 症状：性器の掻痒、不快感ののち、水泡、びらん  
 診断：病変部からウイルス分離、抗原検出や核酸検査（PCR）  
 治療：抗ヘルペスウイルス薬（アシクロビル、バラシクロビルなど）  
 放置すると痛くて放置できるものではないが、放置しても2～4週間で自然に治る。  
 ただし再発を繰り返すことが多い。

### 尖圭コンジローマ

病原体：ヒトパピローマウイルス（6型、11型が多い）注：子宮頸がんは16型、18型感染が多い。  
 感染経路：性的接触を介する皮膚や粘膜の病変との直接接触  
 潜伏期：3週間～8ヶ月  
 症状：性器・肛門周囲などに鶏冠様の腫瘍  
 診断：病変部の形態の観察、病原体の核酸検査（PCR）  
 治療：切除、レーザー、クリーム（イミキモドクリーム）など  
 放置すると20～30%は3ヶ月以内に自然治癒、悪性転化あり。

### 膣トリコモナス症

病原体：膣トリコモナス原虫  
 感染経路：尿道や性器からの分泌物との接触（性的接触のほかに、下着・タオルなどを介しての感染）  
 潜伏期：不定  
 症状：男性は自覚症状のないことが多い。女性は自覚症状に乏しいが、おりものの増加、外陰・膣の刺激感やかゆみ。  
 診断：性器・尿道からの病原体検出、病変部の顕微鏡観察。  
 治療：メトロニダゾール  
 放置すると再発・再燃する。放置しても治ることはない。

### ケジラミ症

病原体：ケジラミ  
 感染経路：性的接触を介する陰股部、陰毛との直接接触、衣類・寝具などを介する間接的感染もある。  
 潜伏期：不定（1～2ヶ月が多い）  
 症状：寄生部位（主に陰股部）の掻痒  
 診断：皮膚・陰部・毛髪などの虫体や卵の確認  
 治療：剃毛、フェノトリンパウダーあるいはシャンプー  
 放置すると症状の継続あるいは悪化。放置しても治ることはない。



**性器カンジダ症**

病原体：カンジダ属の真菌

感染経路：性的接触を介して伝播しうるが、必ずしも発症しない。

潜伏期：不定

症 状：男性では症状を呈することは少ない。女性では外陰部の搔痒とおりものの増加。カンジダを保有しているのみの場合もある。

診 断：顕微鏡観察等による病変部からの孢子や仮性菌糸の検出。病原体の培養。

治 療：抗真菌剤の膣錠や軟膏・クリーム、経口薬、放置すると症状の継続、再発、再燃。放置しても治ることはない。

**B型肝炎**

病原体：B型肝炎ウイルス

感染経路：血液や体液との直接接触

潜伏期：約3ヶ月

症 状：発熱や全身倦怠のあと、黄疸（1～2%で劇症肝炎）。無症候の場合もある。

診 断：血液中の抗原、抗体の検出、病原体の核酸検査（PCR）

治 療：予防にはワクチンが有効。抗ウイルス薬・インターフェロンなどが用いられる場合もある。放置するとキャリア化して、慢性肝炎、肝硬変、さらに肝癌へと進展することがある。

**C型肝炎**

病原体：C型肝炎ウイルス

感染経路：血液や体液との直接接触

潜伏期：2週間～6ヶ月

症 状：全身倦怠感、食欲不振、黄疸などが見られるが、症状は軽い

診 断：血液中の抗原、抗体の検出、病原体の核酸検査（PCR）

治 療：抗ウイルス薬とインターフェロン

放置すると多くがキャリア化して、慢性肝炎、肝硬変、さらに肝癌へと進展することがある。

**後天性免疫不全症候群（エイズ）**

病原体：エイズウイルス

感染経路：血液や体液との直接接触

潜伏期：平均10年程度

症 状：感染成立の2～3週間後に発熱、頭痛などのかぜ様症状が数日から10週間程度続き、その後数年～10年間ほどの無症候期に入る。放置すると、免疫不全が進行し種々の日和見感染症や悪性リンパ腫などを発症する。

診 断：血液中の抗体、抗原、遺伝子の検出、病原体の核酸検査（PCR）

治 療：抗HIV薬

放置すると慢性的に進行し、死に至るが、近年治療による改善・延命が進んできている。

**梅毒の感染が急激に増えています！**

日本全国では今年に入り、初の1万人超となったと国立感染症研究所の報告を11月2日の朝日新聞<sup>(2)</sup>に掲載しています。一番多く感染しているのが男女ともに20代の人です（2022年10月現在）。梅毒は、感染力がとても高く、1回の性交渉での梅毒感染率は約20%といわれています。

感染すると、性器やおしり（こうもん）、口にしこりができたり、からだにブツブツがあらわれたりします。そのあと、いったん症状が消えるので、治ったと思ってしまって、気づくのが遅れてしまうことがあります。

そのまま放置してしまうと、脳の病気や心臓の病気などのこわい病気の原因になります。突然からだにブツブツができたなら、梅毒の検査をしましょう。

以上、最近問題になっている性教育問題を取り上げました。読者の方々からそれぞれの立場で「若い人々に人生を楽しく豊かにするには」という視点からこの問題を捉えて頂ければ幸いです。

参考資料

(1) 公益財団法人・性の健康医学財団ホームページ

(2) 2022年11月2日の朝日新聞記事

**事務局からのお知らせ****獣医師法第22条に伴う届出について**

令和4年度は、隔年で獣医師に届出が義務づけられている獣医師法第22条に伴う届出の年です。会員の皆様には、本会から届出用紙をお送りしていますので、提出期限（令和5年1月末）までに、管轄の家畜保健衛生所に提出してください。

なお、今年度から紙媒体での届出に加え、農林水産省の電子システムでも届出が可能となっています。

農林水産省HP <https://www.maff.go.jp/j/syoutan/tikusui/zyui/22.html>

届出窓口	所在地	対象支部会員（住所地）
東部家畜保健衛生所	〒742-0031 柳井市南町1丁目10-3	岩柳・熊毛・徳山
中部家畜保健衛生所	〒754-0897 山口市嘉川671-5	防府・山口・美祢・宇部厚狭・県庁・山大
西部家畜保健衛生所	〒750-0421 下関市豊田町殿敷1892	下関・豊浦・長北（長門市）
北部家畜保健衛生所	〒758-0061 萩市椿3621-1	長北（萩市、阿武町）

## お知らせ

## 第1回愛玩動物看護師国家試験の実施について

指定試験機関・一般財団法人動物看護師統一認定機構のホームページに、令和5年2月19日(日)に開催される第1回愛玩動物看護師国家試験の実施要綱が公表されています。出願手続の詳細、試験当日の情報等が掲載されていますので、御確認ください。

[指定試験機関HP] <https://www.ccrvn.jp/aigan.shiken.top.html>

## お知らせ

## 中国地区獣医公衆衛生講習会について

(公社)広島県獣医師会から次のとおり開催案内がありました。

- 日時：令和5年1月14日(土) 14:00~16:30
- 会場：R C C文化センター(広島市中区橋本町)
- 演題：(仮題)「サル痘、SFTSについて」
- 講師：岡山理科大学 獣医学部微生物学 教授 森川 茂 先生
- 対象：中国地区獣医師会連合会の会員(参加費無料)
- 参加申込み：次の事項を記載し、窓口(info@fnride.co.jp)あてにメールを送信してください。  
(申込み完了後、確認メールをお送りします。3日たっても確認メールが届かない場合、広島県獣医師会公衆衛生部会事務局(082-513-3103)までお電話ください。)
- ①所属獣医師会名 ②勤務先 ③氏名 ④希望する受講方法(対面又はオンライン)

## お知らせ

## 令和4年12月の主な行事

- 12月1日 ・県獣医師会館検討会議(県獣会館)
- 12月8日 ・小動物部会委員会(県獣会館)
- 12月10日 ・中国地区産業動物講習会(松江市)
- 12月11日 ・市民公開講座(獣医公衆衛生講習会)(防長苑)
- 12月15日 ・日本獣医師会理事会(東京都)

## 事務局だより

- |   |  |
|---|--|
| 11月5日 ・産業動物講習会(防長苑)                     | 11月17日 ・第3回理事会(県獣会館)                   |
| 11月8日 ・鶏病研究会山口県支部鶏病技術研修会<br>(中部家畜保健衛生所) | 11月29日 ・会報編集委員会(県獣会館)<br>11月17日 事業推進会議 |
| 11月11日~13日 ・アジア獣医師会連合(FAVA)大会(福岡市)      | <b>次回編集委員会 12月20日(火) 13:30~</b>        |

山口県獣医師会会報 第739号 令和4年12月10日(毎月1回発行)

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話(083)972-1174 FAX(083)972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

<http://www.yamaguchi-vet.or.jp>

編集責任者 豊川 剛

発行責任者 田中 尚秋

印刷 コロニー印刷